

## フリートーク

プレミアリーグで優勝できなくても4位までに与えられるCL出場権はずっと確保していたので、一部グーナーの間では愛憎込めて「4位力」や「帳尻」と呼ばれたりしています。

高校生になると試合内容も十分にわかるようになりました。アーセナルはショートカウンターとパス&ムーヴが基本で、人とボールがよく動き、縦に速いサッカーが特徴です。こんなサッカーをするガナーズにはどんな選手が合うか考えながらE U R Oなどの各国際大会を観ていました。実際、E U R O 2 0 0 8では、「アルシャヴィンいいなあ欲しいなあ」と思っていたら翌年本当に加入してすごく嬉しかったことを覚えています。

時は進み大学生になると今度は試合外の情報が楽しくなりました。そう一喜一憂の移籍情報です。噂レベルのゴシップからB B Cまで幅広い情報を集めながら夏と冬の移籍期間を楽しんでいます。ただ情報が英語なので、こういう時に英語ができたらなあとも思います。

アーセナルの移籍に関しては、当時はボスが取り仕切っていて、スタジアム建設費のローンを支払いながら黒字を目指す健全経営を行っており、高額な移籍金の捻出が出来ませんでした。そのため、金額が安い若手選手を獲得し、試合に出して育てるといった中小クラブのような経営方針でした。

選手が育つ楽しみがありつつ、さらにグーナーを楽しませた(落胆させた?)ことが、ボスの「我々には強力なスカッドがある」、通称「我スカ」発言です。意味は「我が社には優秀な人材が豊富だ。

だから新規採用はしない。今の人員で頑張れ。」となります。この発言は今でもグーナーの心を良くも悪くも掴んで放しません。それと一部グーナーの間では、絶対に加入しないとわかっている選手の噂でも嬉しいからとりあえず踊らう！という様子を表現した四字熟語の「欣喜雀躍」もよく使われています。もはやこの二つの言葉は移籍期間の風物詩と言えるでしょう。ただ最近では、スタジアムのローンを完済したことで、有名な実力のある選手の獲得が多くなり、謎(の誰も知らない若手)補強の楽しみはなくなりつつありますが、A・サンチエスやエジル、オーバメヤンが決まった時はやはりすごく嬉しくなりました。

社会人になった今は、これまでと同様の楽しみ方に加えて社会的資金力を活かした楽しみが増えました。それはレプリカユニフォームを購入して思い出に浸りながら愛でることです。各時代でデザインやサプライヤーが異なるため、眺めていると当時のアーセナルのことや、自分自身や身の回りのことの記憶が甦って懐かしくなります。一番のお気に入りには9年振りに無冠を終わらせた13-14シーズンで使用していたユニフォームです。これからも思い出と共にユニフォームも増えていくと思います。

2018年夏に22年間続いたヴェンゲル監督の時代が終わり告げ、新しい航海へと乗り出したアーセナルは大荒れの海を進んでいます。後任の監督は2年目の途中で解任、引き継いだアルテタ

監督(アーセナルOB)のチームも昨年F A杯は優勝したものの、現状ではフロントを含め決して良い状態とは言えません。リーグ優勝が目標のチームとしては非常に物足りなく哀しく厳しい状況ではありますが、黄金時代もあれば暗黒時代もあると割り切って欣喜雀躍しながら4位力を信じ、これからもグーナーであり続けようと思います。

受付 梅原

